

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月13日

【四半期会計期間】 第26期第2四半期(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)

【会社名】 株式会社シーティーエス

【英訳名】 C T S C o . , L t d .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 横 島 泰 蔵

【本店の所在の場所】 長野県上田市古里115番地

【電話番号】 0268-26-3700(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 狩 野 高 志

【最寄りの連絡場所】 長野県上田市古里115番地

【電話番号】 0268-26-3700(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 狩 野 高 志

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第25期 第2四半期累計期間	第26期 第2四半期累計期間	第25期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(千円)	2,970,852	3,040,478	6,144,791
経常利益	(千円)	465,303	456,919	946,464
四半期(当期)純利益	(千円)	313,789	284,278	612,267
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	425,996	425,996	425,996
発行済株式総数	(株)	11,200,000	11,200,000	11,200,000
純資産額	(千円)	2,969,451	3,297,795	3,162,318
総資産額	(千円)	6,047,888	6,993,848	6,755,227
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	29.20	26.45	56.97
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)	9.00	11.00	20.00
自己資本比率	(%)	49.1	47.2	46.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	425,447	357,284	1,146,895
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	3,662	49,875	50,793
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	313,392	386,008	669,586
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,500,260	1,732,459	1,811,059

回次		第25期 第2四半期会計期間	第26期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	17.24	15.36

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第25期の1株当たり配当額20.00円及び第26期第2四半期累計期間の1株当たり配当額11.00円には、記念配当1.00円を含んでおります。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当社は、適切な流動性の維持、事業活動のための資金確保及び透明性があり健全なバランスシートの維持向上を財務方針と掲げ取り組んでおります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間（平成27年4月1日～平成27年9月30日）の当社主要顧客である土木・建設業界を取り巻く環境につきましては、民間投資は大手企業を中心に増加傾向であるものの、公共投資は発注遅れによる工事件数の減少に加え、慢性的な人手不足による建設単価上昇等、引き続き予断を許さぬ状況が続いております。

このような状況のなか、当社におきましては、平成27年3月期から平成30年3月期までの4ヵ年を対象にした中期経営計画を策定し、その中核方針は、「システム・測量計測事業を中心に「建設ICT」（ ）分野の専門企業として全国ネットワークを構築する」及び「レンタル取引を主体とした、現場代理人リピーター10,000人の獲得を目指す」であります。この方針を基に事業を着実に展開してまいりました。

当第2四半期累計期間の業績につきましては、前年同期に環境安全事業において一過性の大型工事の完成があったことによる反動減があるものの、主力事業である建設ICT（システム事業・測量計測事業）が売上高2,189,355千円（前年同期比12.5%増）と堅調に推移し、全体の売上高は前年同期を上回る実績となりました。

利益面は、建設ICT（システム事業・測量計測事業）が売上高の伸長により売上総利益967,505千円（前年同期比13.6%増）と堅調に推移するものの、中期経営計画に基づく全国ネットワークを構築する為、主力事業を中心とした積極的な人員増加策等を実施したことによる人件費の上昇に加え、下期に見込んでいた東京証券取引所市場第二部から同市場第一部銘柄への指定替えに伴う関連費用が当第2四半期累計期間に発生したことから、販売費及び一般管理費が前年同期に比べ増加いたしました。その結果、全体の売上総利益は増加したものの、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前年同期を下回る実績となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の実績は、売上高3,040,478千円（前年同期比2.3%増）、営業利益473,985千円（前年同期比1.3%減）、経常利益456,919千円（前年同期比1.8%減）、四半期純利益284,278千円（前年同期比9.4%減）となりました。

・建設ICT（Information and Communication Technology）

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<システム事業>

当事業につきましては、システム機器及びアプリケーション等のレンタル・販売に関して、平成27年1月に盛岡支店を開設し、営業エリアの拡大を図るとともに、既存の営業拠点におきましても営業活動の強化、新規顧客の開拓等を積極的に展開した結果、受注を堅調に確保することができ、当事業の売上高は1,254,965千円（前年同期比11.6%増）となりました。利益面は、売上高の伸長により売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費を前年同期並に抑えられた結果、セグメント利益（営業利益）は263,372千円（前年同期比28.5%増）となりました。

<測量計測事業>

当事業につきましては、測量機器及び計測システム等のレンタル・販売に関して、中期経営計画の方針に基づき「建設ICT」分野に注力した結果、受注を堅調に確保することができ、当事業の売上高は934,389千円（前年同期比13.7%増）となりました。利益面は、中期経営計画に基づく全国ネットワークを構築する為、積極的な人員増加策等を実施したことによる人件費の上昇に伴う販売費及び一般管理費の増加が影響し、セグメント利益（営業利益）は108,280千円（前年同期比5.6%減）となりました。

<ハウス備品事業>

当事業につきましては、建設現場事務所用ユニットハウス及び什器備品等のレンタル・販売に関して、発注遅れが起因となる現場数の減少に伴う厳しい受注競争によりレンタル単価が下落し、当事業の売上高は588,715千円（前年同期比2.8%減）となりました。利益面は、ハウスの新棟購入・補修費等のレンタル原価が増加したことが影響し、セグメント利益（営業利益）は80,608千円（前年同期比30.2%減）となりました。

<環境安全事業>

当事業につきましては、道路標示・標識及び環境・景観分野の工事並びに安全用品のレンタル・販売に関して、専門分野である道路標示工事の受注が堅調に推移いたしましたが、前年同期において、一過性の大型工事の完成があったことによる反動減があり、当事業の売上高は262,407千円（前年同期比37.4%減）となりました。利益面は、工事原価の削減に努めましたが、売上高の減少を補えず、セグメント利益（営業利益）は21,723千円（前年同期比51.9%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末の財政状態につきましては、総資産が6,993,848千円となり、前事業年度末と比較して238,621千円増加いたしました。

流動資産は3,648,656千円となり、前事業年度末と比較して110,062千円増加いたしました。主な要因は、その他流動資産の増加274,449千円があった一方で、たな卸資産の減少117,715千円があったことによるものであります。

固定資産は3,345,192千円となり、前事業年度末と比較して128,559千円増加いたしました。主な要因は、リース資産の増加183,790千円があった一方で、投資その他の資産の減少44,025千円があったことによるものであります。

負債は3,696,053千円となり、前事業年度末と比較して103,144千円増加いたしました。主な要因は、その他流動負債の増加133,007千円、リース債務の増加142,760千円があった一方で、支払手形及び買掛金の減少114,947千円、未払法人税等の減少60,172千円があったことによるものであります。

純資産は3,297,795千円となり、前事業年度末と比較して135,476千円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益284,278千円を計上した一方で、剰余金の配当118,219千円を行ったことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は47.2%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は1,732,459千円となり、前事業年度末と比較して78,599千円減少いたしました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は357,284千円（前年同期は425,447千円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益431,420千円、資金支出を伴わない費用である減価償却費296,896千円による資金の獲得に対して、仕入債務の減少114,947千円、法人税等の支払204,334千円が充当されたことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は49,875千円（前年同期は3,662千円の獲得）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出14,843千円、有形固定資産の除却による支出33,022千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は386,008千円（前年同期は313,392千円の使用）となりました。これは、リース債務の返済268,086千円と配当金の支払117,922千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,000,000
計	38,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,200,000	11,200,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	11,200,000	11,200,000		

(注)平成27年8月21日をもって、当社株式は東京証券取引所市場第二部から同取引所市場第一部へ指定替えしております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月30日		11,200,000		425,996		428,829

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社横島	長野県上田市材木町2-5-22	4,000,000	35.7
手塚克巳	長野県上田市	320,000	2.9
シーティーエス社員持株会	長野県上田市古里115	309,800	2.8
宮沢俊行	長野県上田市	210,000	1.9
株式会社八十二銀行	長野県長野市大字中御所字岡田178-8	208,800	1.9
猪股和典	千葉県流山市	165,400	1.5
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	160,000	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	119,900	1.1
春原由妃	神奈川県横浜市青葉区	98,900	0.9
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川1-14-1	89,500	0.8
野村證券株式会社 (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	東京都中央区日本橋1-9-1 (東京都千代田区丸の内1-3-2)	89,500	0.8
計		5,771,800	51.5

(注) 上記のほか当社所有の自己株式452,800株(4.0%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 452,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,745,700	107,457	
単元未満株式	普通株式 1,500		
発行済株式総数	11,200,000		
総株主の議決権		107,457	

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社シーティーエス	長野県上田市古里115	452,800		452,800	4.0
計		452,800		452,800	4.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,811,059	1,732,459
受取手形及び売掛金	1,241,160	1,267,996
たな卸資産	1 277,678	1 159,963
その他	216,925	491,374
貸倒引当金	8,230	3,137
流動資産合計	3,538,594	3,648,656
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産(純額)	13,864	8,182
建物(純額)	234,191	229,873
土地	777,810	777,810
リース資産(純額)	1,814,169	1,997,960
その他(純額)	77,135	79,372
有形固定資産合計	2,917,172	3,093,200
無形固定資産	84,823	81,380
投資その他の資産		
投資その他の資産	215,937	171,911
貸倒引当金	1,300	1,300
投資その他の資産合計	214,637	170,611
固定資産合計	3,216,632	3,345,192
資産合計	6,755,227	6,993,848
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	935,957	821,010
未払法人税等	209,388	149,215
その他	920,371	1,053,379
流動負債合計	2,065,717	2,023,605
固定負債		
リース債務	1,316,147	1,458,907
その他	211,044	213,540
固定負債合計	1,527,191	1,672,448
負債合計	3,592,908	3,696,053
純資産の部		
株主資本		
資本金	425,996	425,996
資本剰余金	428,829	428,829
利益剰余金	2,309,551	2,475,610
自己株式	91,383	91,383
株主資本合計	3,072,993	3,239,052
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	89,325	58,742
評価・換算差額等合計	89,325	58,742
純資産合計	3,162,318	3,297,795
負債純資産合計	6,755,227	6,993,848

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	2,970,852	3,040,478
売上原価	1,727,851	1,740,673
売上総利益	1,243,001	1,299,804
販売費及び一般管理費	1 762,659	1 825,819
営業利益	480,341	473,985
営業外収益		
受取利息	22	16
受取配当金	1,200	1,680
受取地代家賃	1,080	1,098
受取保険金	1,006	6,605
物品売却益	2,011	-
その他	1,258	1,104
営業外収益合計	6,578	10,503
営業外費用		
支払利息	20,798	26,851
その他	817	717
営業外費用合計	21,616	27,569
経常利益	465,303	456,919
特別利益		
投資有価証券売却益	23,656	-
特別利益合計	23,656	-
特別損失		
固定資産除却損	-	25,498
特別損失合計	-	25,498
税引前四半期純利益	488,960	431,420
法人税、住民税及び事業税	178,915	141,828
法人税等調整額	3,744	5,313
法人税等合計	175,171	147,141
四半期純利益	313,789	284,278

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	488,960	431,420
減価償却費	259,284	296,896
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,118	5,092
受取利息及び受取配当金	1,222	1,696
支払利息	20,798	26,851
固定資産除却損	-	25,498
投資有価証券売却損益(は益)	23,656	-
売上債権の増減額(は増加)	120,588	26,835
たな卸資産の増減額(は増加)	10,242	117,715
仕入債務の増減額(は減少)	10,595	114,947
その他	8,383	163,037
小計	635,727	586,775
利息及び配当金の受取額	1,222	1,696
利息の支払額	20,798	26,851
法人税等の支払額	190,703	204,334
営業活動によるキャッシュ・フロー	425,447	357,284
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,240	14,843
有形固定資産の除却による支出	-	33,022
無形固定資産の取得による支出	19,140	880
投資有価証券の取得による支出	-	1,250
投資有価証券の売却による収入	25,066	-
その他	23	120
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,662	49,875
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	227,542	268,086
配当金の支払額	85,850	117,922
財務活動によるキャッシュ・フロー	313,392	386,008
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	115,717	78,599
現金及び現金同等物の期首残高	1,384,543	1,811,059
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,500,260	1 1,732,459

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
商品	251,560千円	129,756千円
半成工事	13,861千円	15,524千円
原材料及び貯蔵品	12,257千円	14,683千円

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
貸倒引当金繰入額	4,118千円	5,092千円
給料及び手当	353,727千円	388,198千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金	1,500,260千円	1,732,459千円
預入期間が3か月を超える定期預金		
現金及び現金同等物	1,500,260千円	1,732,459千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月13日 定時株主総会	普通株式	85,977	16.00 (8.00)	平成26年3月31日	平成26年6月16日	利益剰余金

(注) 平成26年8月22日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。当該株式分割に伴う影響を加味して計算した場合の数値を()内に記載しております。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	96,724	9.00	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月12日 定時株主総会	普通株式	118,219	11.00	平成27年3月31日	平成27年6月15日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額は記念配当1.00円を含んでおります。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	118,219	11.00	平成27年9月30日	平成27年12月7日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額は記念配当1.00円を含んでおります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注)
	システム 事業	測量計測 事業	ハウス備品 事業	環境安全 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,124,182	821,618	605,831	419,220	2,970,852		2,970,852
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	1,124,182	821,618	605,831	419,220	2,970,852		2,970,852
セグメント利益	204,953	114,730	115,528	45,129	480,341		480,341

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注)
	システム 事業	測量計測 事業	ハウス備品 事業	環境安全 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,254,965	934,389	588,715	262,407	3,040,478		3,040,478
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	1,254,965	934,389	588,715	262,407	3,040,478		3,040,478
セグメント利益	263,372	108,280	80,608	21,723	473,985		473,985

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	29円20銭	26円45銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	313,789	284,278
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	313,789	284,278
普通株式の期中平均株式数(株)	10,747,200	10,747,200

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成27年10月30日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による定款の定めに基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

1. 理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主価値の向上を図るため

2. 取得する株式の種類：普通株式

3. 取得する株式の数：550,000株(上限)

4. 株式取得価額の総額：440百万円(上限)

5. 自己株式取得の期間：平成27年11月2日から平成28年3月31日まで

6. 取得方法：東京証券取引所における市場買付

2 【その他】

第26期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当について、平成27年10月30日開催の取締役会において、平成27年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 118,219千円

1株当たりの金額 11円00銭(記念配当1円00銭含む)

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成27年12月7日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年10月30日

株式会社シーティーエス
取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十幡 理一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉田 昌則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シーティーエスの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第26期事業年度の第2四半期会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シーティーエスの平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。